

平成29年3月8日

天理市議会議長
大橋 基之 様

総務財政委員会
委員長 市本貴志

総務財政委員会視察報告書

視察日程 平成28年10月11日（火）～10月13日（木）

視察先及び調査事項 新潟県見附市 10月11日（火）
調査事項 「防災対策」について
・経過及び現状、今後の課題
・2度の大水害における行政対応
・防災公園（パティオにいがた）現地視察

新潟県長岡市 10月12日（水）
調査事項 「防災体制の強化」について
・経過及び現状、今後の課題
・市民防災センター 現地視察

新潟県新潟市 10月13日（木）
調査事項 「公共交通及び自転車で移動しやすく快適に歩けるま
ちづくり条例」について
・条例策定にかかる経過
・経過及び現状、今後の課題
「新潟ニューフードバレー」について
・経過及び現状、今後の課題

視察議員	委員長	市本貴志
	副委員長	三橋保長
	委員	寺井正則
	委員	大橋基之
	委員	岡部哲雄
	委員	鳥山淳一

随 行 議会事務局 上村克樹

(1) 視察先及び目的

1. 新潟県 見附市

【調査事項】

「防災対策」について

- ・経過及び現状、今後の課題
- ・2度の大水害における行政対応
- ・防災公園（パティオにいがた）現地視察

【目的】

- ・災害（大水害）の経験を活かした先進的な防災対策とは
- ・まちづくりと防災対策
- ・有事の際のBCP（行政業務継続計画）

2. 新潟県 長岡市

【調査事項】

「防災体制の強化」について

- ・経過及び現状、今後の課題
- ・市民防災センター 現地視察

【目的】

- ・災害（中越大地震）の経験を活かした先進的な防災対策とは
- ・まちづくりと防災対策

3. 新潟県 新潟市

【調査事項】

「公共交通及び自転車で移動しやすく快適に歩けるまちづくり条例」について

- ・条例策定にかかる経過
 - ・経過及び現状、今後の課題
- 「新潟ニューフードバレー」について

- ・経過及び現状、今後の課題

【目的】

- ・市民の意見を活かした、まちづくりにおける交通手段のあり方
- ・公共交通の先進的取り組み事例
- ・まちづくりに「農」を活かした先進的な取り組みについて

(2) 視察概要

1. 見附市役所

①視察日時

平成28年10月11日（火）13時30分～15時30分

②調査事項

- ・「防災対策」について
- ・防災公園（パティオにいがた）現地視察

③視察先対応者

見附市 企画調整課 課長補佐 大野 務 氏
見附市 企画調整課 主任 姉崎 晋悟 氏
見附市 議会事務局 次長 眞島 綾子 氏

④施策概要

見附市地域防災計画は、「風水害等対策編」、「震災対策編」、「原子力災害対策編」及び「資料編」で構成されている。

※取り組みとして、防災訓練・防災キャンプ（防災教育）などのソフト面と、遊水地、田んぼダム豪雨被害軽減対策などのハード面の両面に渡り先進的に取り組んでおられる。

- 動画で見る「見附市の防災対策」
- 自主防災組織資機材購入等事業補助金について
- 遊水地、田んぼダムが豪雨被害軽減に大きな役割
- 福島県伊達市と「災害時相互応援協定」を締結
- 防災サイレンの種類
- 見附市豪雨災害対応ガイドブック
- 村上、見附、妙高 災害時の庁舎機能移転含む協定締結
- 水害時非常配備・避難情報発令基準
- 見附市緊急情報メールについて
- 非常持ち出し品の情報提供

⑤参考資料（添付）

視察先説明資料

2. 長岡市役所

①視察日時

平成28年10月12日（水）9時30分～11時30分

②調査事項

- ・「防災体制の強化」について
- ・ながおか市民防災センター 現地視察

③視察先対応者

長岡市 危機管理防災本部 課長補佐 長谷川 正和 氏
長岡市 議会事務局 調査係 井坂 真由美 氏

④施策概要

「長岡市防災体制の強化の指針」は、平成16年の中越大震災、同年の新潟・福島豪雨及び平成19年の中越沖地震などから得た教訓を生かしながら、「災害予防と減災対策」「地域防災力の強化」「災害情報伝達体制の整備」「応急対策と避難環境の整備」「災害対策本部機能の強化」の5本の柱から構成され、「市民力・地域力を最大限に生かした日本一災害に強い都市の実現」を目指したものとなっている。

※具体的な取り組みとして特筆すべきは、避難所環境の改善・整備であって、これは、実際に避難所で生活していた人達からの意見を取り入れ、避難者目線で避難所を改善しているというものであった。また、現地視察を行った「ながおか市民防災センター」は平常時の「子育ての駅」と有事の際の「市民防災の拠点」が融合した全国初の施設であった。

- 市民・企業・市会議員・市職員、それぞれの立場からの意見やアイデアを集約し、長岡市防災体制強化の指針に反映
- 自主防災組織の結成を促進
- 災害に強い道路・公園・ライフラインの整備
- 度重なる災害の経験からの地域防災計画の見直し
 - ・自分や家族を守るために災害予防を施し、被害をできるだけ小さくする「災害予防と減災対策」
 - ・日ごろの地域のつながりが災害時にも大きな力を発揮する「地域防災力の強化」
 - ・災害情報を市民に迅速かつ的確に伝達する「災害情報伝達体制の整備」
 - ・万が一に備え、住民が安心して避難できる「応急対策と避難環境の整備」
 - ・平常時の業務やネットワークを活用する「災害本部機能の強化」
- 避難所環境（主に学校施設）の整備
 - ・出入り口にスロープを設置
 - ・トイレの洋式化
 - ・機械室内の既存受水槽に蛇口を設置
 - ・非常時の物資搬入や保存を見据えた改修

- ⑤参考資料（添付）
視察先説明資料

3. 新潟市

アグリパーク

① 視察日時

平成28年10月12日（水）12時30分～15時

② 調査事項

・公立教育ファーム新潟市アグリパーク見学

③ 視察先対応者

新潟市 アグリパーク 統括館長 坪川 藤夫 氏

④ 施策概要

新潟市アグリパークは、農地面積、生産量とも全国屈指の農業集積度の高い新潟市が食と花を通じて農村と都市の交流を活性化し地域農業の振興を図るために設置された施設である。施設の内容は

①公立教育ファームとして農業に触れ、親しみ、農業を学ぶ場の提供

②農産物の生産から加工、販売を担う第6次産業化の推進

③地元の農家、JAと連携し次代の農業の担い手を育成する

こととし、宿泊型農業施設でもあり市内の小学校全児童が食と農業を学ぶ教育ファーム、就農希望者の研修、農産物の加工商品化指導が一体となっている。

施設の規模は、敷地面積39,364㎡クラブハウス、体験ハウス、体験畜舎、農機具庫、宿泊コテージ、宿泊棟、直売所、レストラン、食品加工センター等である。

- ⑤参考資料（添付）
視察先説明資料

新潟市役所

① 視察日時

平成28年10月13日（木）9時30分～11時30分

② 調査事項

- ・公共交通及び自転車で移動しやすく快適に歩けるまちづくり条例について
- ・新潟ニューフードバレーについて

③視察先対応者

新潟市	農林水産部 政策監	松尾 大介 氏
新潟市	土木部道路計画課事業班 主幹	加治 覚 氏
新潟市	都市政策部都市交通政策課 主幹	小林 久剛 氏
新潟市	議会事務局 次長	吉田 哲之 氏
新潟市	議会事務局 主査	神田 隆 氏

④施策概要

・公共交通及び自転車で移動しやすく快適に歩けるまちづくり条例について

新潟市公共交通及び自転車で移動しやすく快適に歩けるまちづくり条例は、超高齢化社会、健康づくり、環境問題、まちなかの活性化などの社会環境の変化に対応すべく公共交通や自転車で移動しやすく快適に歩けるまちづくりを目指して、その方向性を明確にし、市民と共有するために平成24年7月に制定されたものである。この条例には、基本となる理念、市、市民、交通事業者等の責務を明らかにするとともに、交通施策の基本となる取り組みを定めており、市民と協同して、歩行・自転車・公共交通の環境の整備と利用促進を目指すものである。

●政令都市移行後の新潟市の現状と課題

- ①急激な高齢化の進展
- ②全国平均を下回る歩行量
- ③マイカー依存
- ④運輸部門での高いCO2排出量

●公共交通の現状と課題

- ①利用者の減少
- ②利用便の減少

●市全体で持続可能な公共交通体系の構築

●健幸都市づくり（スマートウェルネスシティ）

- ①移動しやすいまちづくり

●歩行環境の整備

- ①歩行空間のネットワーク化（路側帯のカラー化等）
- ②自動車の通過速度の抑制

●自転車環境の整備

- ①レンタサイクルの運営、駐輪場の整備、自転車歩行空間の整備、交通ルールの指導・マナー啓発
- ②自転車利用団体への支援

●公共交通環境の整備

- ①地域の公共交通の強化
- ②都心アクセスの強化
- ③都心部での移動円滑化

●市民意見の反映

・新潟ニューフードバレーについて

新潟ニューフードバレープロジェクトは、新潟市革新的農業実践特区の推進計画の中心的取り組みであり、革新的な農業実践、農業の生産性の向上、農作物、食品の高付加価値、農業の国際競争力強化のための拠点形成、農業分野の創業・雇用拡大の支援を目標に農業を含めた食産業が連携し発展するプロジェクトである。

- 農商工連携と6次産業化
- 食産業集積
- 高度な技術研究・人材
- 食品リサイクル
- ブランド力の情報発信
- フードデザイン

⑤参考資料（添付）

視察先説明資料

(3) 考察と今後の課題

今年度の議会報告会における総務財政委員会のテーマ「安心・安全のまちづくり」として委員会として取り組むことを決め、視察においても有事の経験をもとに防災に取り組んでおられる基礎自治体の先進的な取り組み及び経緯経過をお聞かせいただいた。

見附市では、Webカメラにて河川の状況が24時間いつでも見られる状況や、遊水地・田んぼが、ダム機能を有しており豪雨被害軽減に大きな役割をはたしている。このことは、防災公園にて模型を作製され水害の状況、また田んぼダムが、水害時にどのように役立つかをみることができた。

長岡市では、度重なる災害の実経験に基づいた取り組みが実践されており、これは机上の議論では見えてきにくい諸課題に対し、これからどのように向き合えばいいのか、具体的には、平常時のものや仕組みに非常時対応をうまく織り込んでいくことや、有事の際の支援物資の仕分けや避難所の運営等々、非常に重要かつ多くの示唆をいただいた。

新潟市はまさに「農業を核に地方創生のトップランナーに」を謳うとおり、全国トップクラスの農業力を基盤に食産業ナンバーワン都市を目指し、フードデザインを広め、新たなネットワークを起し続ける力強さを目の当たりにした。規制緩和を進めいろいろな企業との連携に産官民学金の協同のプロジェクトに大変驚かされた。フードバレープロジェクトに見る新たな農業を核とした、農業から始まる成長戦略の具体性にも新潟市の勢いを感じる。本市も第6次産業に今後もっと力を入れ、生産性の向上、農作物の加工、食品の高付加価値の向上に力を入れなければならないと感じる。また、教育ファ

ームとしてのアグリパークでは、農業の楽しさ素晴らしさ将来性を子供たちに体験させ伝えていく農業への誇りを教えられた。ここで学び体験する子供たちからやがて新潟はもとより日本の農業を支えてくれる大人へと成長することを期待したい。

「新潟市公共交通及び自転車で移動しやすく快適に歩けるまちづくり条例」は、すでにそこまで迫っている超高齢化社会に対応した公共交通や自転車で移動しやすく安全で快適に歩けるまちづくりを考え公共交通環境の整備、健康づくり、環境問題、まちなかの活性化などを市民協同で進めていることの大切さを学べた。NPOで地域の公共交通の強化の取り組みとして住民バスを走らせていることがその成果といえる。市民意見の反映も大きな推進力となっている。

また、本市議会「議会報告会」においても総務財政委員会のテーマは「安心・安全のまちづくり」とし、市民の方々からご意見をうかがった。市民の方から出た意見「個人の非常時持ち出し品」はどのようなものが最低限必要か、町から町への広報に掲載をして啓発して欲しいとのことであった。

視察先の見附市では、既に市のホームページで「非常時持ち出し品」に関する詳細が掲載されている。有事の経験から、市民が気になることは既に行われているんだと感じた。

視察で学べた先進的な取り組み事例など、しっかりと行政と共有し、市民の安心・安全のまちづくりに応えていかなければならないと存じます。